



# 学校だより

12月(2)号

自ら学び考えることができる生徒

感性豊かで思いやりのある生徒

心身ともに健康な生徒

大田区人権教育研究協力校

「みんながいる わたしがいる  
さしのべる 生きている」

令和2年12月25日

大田区立糀谷中学校

校長 小島 宏一郎

## 2学期を振り返って

## 2学期終業式校長講話より

校長 小島宏一郎

おはようございます。88日間の長い2学期も今日で終わり、終業式を迎えることができました。

修学旅行、移動教室、連合行事は残念ながら中止となってしまいましたが、10月には体育祭を開催することができ、全校生徒が体育祭を成功させようと、気持ちを一つにして頑張ってくれました。体育祭後の1年生の作文には、競技や係の仕事に本気で取り組む上級生の姿にあこがれ、「来年は、自分たちも2・3年生のようになりたい」という感想がありました。行事に全力で取り組む糀谷中学校の伝統を、2・3年生の皆さんが、1年生にしっかりと伝えてくれたことに感謝します。

また、今、3年生は高校入試のための面接練習を行っています。中学校生活で一番印象に残った思い出として、多くの生徒が、「3年生の体育祭」と答え、その理由に、「クラスみんなが協力して一つになれたこと」「全力で応援や競技に取り組めたこと」ことを挙げてくれました。3年生に良い思い出が作れたことをうれしく思います。

他にも、生徒会役員選挙、後期の委員決め、部活動の新人戦、道徳地区公開講座の命の授業、2回の定期考査、1年生は職業インタビューの発表、防災活動拠点訓練、2年生は職業講話、3年生は進路選択に向けての取組が本格的に始まりました。11月には生徒発表会の実行委員会も組織作りが行われ、実行委員の取組みも始まりました。コロナ禍の中でも、様々な学習や活動があり、その取組を通して、皆さん1人1人が着実に成長を遂げてきたのではないのでしょうか。

さて、2学期の始業式では皆さんに2つのことをお願いしました。「目標をもって主体的に学ぶこと」「関りを大切にすること」の3つですが、いかがでしたか。

今日の学活で担任の先生から、皆さん一人一人に通知表が手渡されますが、各教科の評価・評定からは、学習面の取組状況が確認できます。各教科で、何ができて何ができなかったのか、何が分かって何が分からなかったのかをしっかりと振り返り、3学期の授業に備えてください。また、担任の先生方が皆さん一人一人のことをよく考え、時間をかけて書き上げた所見からは、自分の仕事に責任をもって取りくんでくれた生徒や目立たないところでも誠実に努力した生徒が、本当にたくさんいたことが分かり、

心から嬉しく思います。

印象に残った所見を紹介します。

「普段の授業で聞き取ったことを自分でメモを取ったり、わかりやすくまとめたりしてノートの取り方を工夫しています。」「学習面でもとても積極的で、授業では毎回挙手をして発言する姿がありました。」「授業に主体的に取り組んでいる姿が伝わってきます。

「自分の近くに困っている友だちがいると、必ず声をかけて助けてくれています。」「自然と「ありがとうございます」など挨拶が気持ちよくできるのもあなたの良いところです。」「自分のことよりも友だちのことを優先して、自分のできることは何でもやるうとする姿勢は立派です。」「クラスの友だちへの温かな思いやりが感じられます。

「清掃や給食当番、係など、自分の役割をきちんと果たしてくれるので、安心して仕事を任せられます。」「ボランティアで毎日ドアや窓を消毒してくれました。なかなかできることではないと思います。」「

学習面の取組みだけでなく、日頃から周囲の友だちに温かく接する生徒、地道に係や当番に取り組む生徒、自分から気付いてみんなのために動いてくれる生徒、こういった生徒が糀谷中の学校生活や行事を支えてくれていることは間違いありません。

他にも様々な場面で、一生懸命に頑張ってきた人や地道に努力を続けてきた人がたくさんいることと思います。反面、十分に取組みなくて悔いの残っている生徒もいることでしょう。ぜひ2学期の良かった点、悪かった点をしっかりと振り返り、3学期の目標を具体的に立ててください。

また、冬休みは学期の切り替わりの時機であるだけでなく、新たな年を迎える時機でもあります。

「1年の計は元旦にあり」ということわざがありますが、残り1週間で今年1年を振り返り、2021年の夢や抱負をしっかりとって元日の朝を迎えてください。

新型コロナウイルスの感染が広がっています。誰がいつ感染してもおかしくない状況です。これからインフルエンザも流行るかも知れません。規則正しい生活と健康管理、感染予防対策を徹底し、3学期の始業式には皆さん全員元気に登校してください。

特に、3年生は進路決定の大切な冬休みです。強い意志をもって、目標に向かって、粘り強く諦めず、突き進んでください。応援しています。



# 生徒の活躍の記録から

## 【中学生の「税についての作文」】

大田区教育委員会教育長賞 3 D [ ]  
蒲田間税会長賞 3 D [ ]

※下に作文を掲載しますのでお読みください。

## 【バレーボール部】

第15回クリスマスカップ  
イルミネーションリーグ 優勝



## 【大田区小中学校人権啓発作品展】

### ポスターの部

3 C [ ] 「さあ！咲かそう 笑顔の花」  
3 C [ ] 「みんなちがって みんないい」



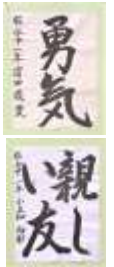
### 標語の部

2 A [ ] 「人の言葉 武器にもなれば 助けにもなる」  
2 D [ ] 「ながされない 本当の自分を かくさない」



### 習字の部

1 A [ ] 「勇氣」  
1 C [ ] 「親しい友」



### 税があることで

私たちの生活の中には、税があります。私は消費税が十パーセントになった時、「高い」「税なんて、無くていいのに」と思いました。ですが、税について調べてみて考え方が変わりました。

まず、税金は私たちの教科書や学校の設備など、教育に使われていました。中学校までは、買わなくても教科書をもらうことができます。それは税金があるからです。今まで、当たり前のように教科書をもらって、机や椅子を使い、勉強してきました。私たちが不便なく勉強できているのは、税金があるおかげなのだと思いました。税金は他にも、道路や信号をつくるためにも使われています。信号が無かったら事故故が起ります。そして私たちがきれいな道路を歩くことができるのも税金のおかげです。中でも、私が一番税があることで助かっていることは医療費です。私は、バスケットボール部に入っています。部活をしていると、とてもたくさん怪我をします。ですが、病院に行っても無料で診察や治療を受けることができます。他にも、風邪をひいた時や、何かの検査を受ける時も無料です。中学生までは、医療費を払わなくてもいいのだそうです。これもまた、税のおかげです。もし、税が無かったらとても苦労していたと思います。そう考えると、本当にありがたいことだと私は思っています。今までは、当り前のようだったように思っていたが、来年からは怪我をして病院に行ってもお金を払うことになるのです。そこでやっと、私はありがたみを感じてほしい。私は、インターネットで「今、わが国では少子高齢化が進んでいるが、この問題の一つは、社会保障の費用が増えることであり、もう一つは、その費用を負担する働き

手が減っていることだ。」という記事を見ました。二〇〇〇年では、三・六人で一人の老人分の負担でしたが、二〇二五年には一・八人で一人の老人を負担することになっています。とても負担が大きくなるでしょう。私が大人になった時負担は大きくないと思います。それでも私は、しっかりと働いて税金を納め、今の不自由のない生活をさせてもらっている恩返しをしたいです。次は、私たちが子どもや高齢者のために働く番です。なにげないこの毎日を送ることに、税金がこんなにも関わっていることを初めて知りました。

私は、税金が私たちの生活に欠かせないものだ、感謝しなければならぬと思います。当たり前の毎日は、税金からできているのです。

### 学校と勉強と税金

友だちとの会話で、「勉強嫌だ。」「学校に通えない人、いいな羨ましい。」「学校がなくなればいいのに。」というようなマイナスイメージを聞きました。今までは、どうい言葉返すのが正しいのかわからず、共感や同意をしてしまいました。しかし、今回、税について勉強して、共感や同意を止めた自分以後悔をしています。

小・中学校の教科書は、税金で払われているものという事は、ほとんどの人が知っています。私も知っていました。しかし、教育の面で使われている税金はそれだけではありません。例えば、学校の設備に使われているお金も税金です。プールや黒板、教室の机や椅子、もちろん校舎もです。又、私たちがお世話になっている学校の先生の給料も税金です。それらの合計額を調べてみると、「一年で、小学生

一人あたりは、およそ八十四万八千円、中学生一人あたりは、およそ九十七万九千円が使われている。」と書かれています。もし、税金が学校に使われなくなったら、小学生の親や家族は、このお金を払わなくてはなりません。払えずに、十分な義務教育を受けさせられない家族が、今の何十倍、何百倍以上に増えてしまおうと思います。しかし、残念ながら、海外ではそうなのではない国があります。「小学校に通えない子どもは、世界で約千三百万人いて、そのうち半分は、アフリカに集中している」と言われているそうです。子どもが学校に行けない理由として、「家事で家庭のために労働しなければならぬ。」が六十六パーセント以上を占めるそうですが、やはり、「貧困により、学費や教材費が払えない。」ということが大きいそうです。実は、日本も、そういう時期があったそうで、詳しく調べると、「明治時代の「学制」が始まり、敗戦後十五年近く経つまで、教科書は無償ではなかった。」とが国だけでなく、日本もそういう子が多くいたのです。

今の日本は、昔や他国と比べ、勉強面の環境に恵まれている方だと思えました。私は、日本の税制のおかげで、学校に通えていること、税金で出来ている教科書、環境授業を大事にしたいです。また、世界で学校に行けない子どもは、学校に行きたいと思っています。なので、軽い気持ちで羨ましいと感じてはいけなと思います。今後、もし、誰かと学校や勉強でマイナスイメージになったら、今回調べたこと、国が学校にかけている税金は、決して、そんなことを口に出していい値ではないと思うことを伝えたいです。

私は、今回、税金について調べ、学校以外の税金が使われているものも、有意義に使いたい。

2020年はコロナ禍で生活様式が大きく変化しました。学校の取組も十分にできなかった面もありますが、子どもたちは、できることに精一杯取り組み、着実に成長しています。来年も温かなご理解ご協力をお願いいたします。良い年をお迎ください。